

## 第7回 石狩市地域防災計画・水防計画改訂検討委員会【要点筆記】

日 時：平成24年9月28日（木）15：00～17：00

場 所：石狩市役所4階 401・402会議室

出席者：次のとおり

委 員					
役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠
委員長	加賀屋 誠一	○	委員	熊谷 雅之	○
委員	竹口 尊	○	委員	藤山 和弘	×
委員	菊池 政幸	○	委員	藤巻 信三	○
委員	石川 國弘	○	委員	五十嵐 正勝	○
委員	東 重孝	○	委員	有馬 信	×
委員	千葉 則理	×	委員	米澤 哲	×
委員	覚知 邦夫	×	委員	小沼 陽子	×
委員	古泉 利雄	○	委員	羽田 美智代	○
委員	山田 義晴	○	委員	荒川 よし子	○
委員	酒井 志津子	×			
事務局	所 属		氏 名		
	総務部長		佐々木 隆哉		
	総務課危機管理担当課長		市園 博行		
	総務課危機管理担当主査		山口 恒心		
	総務課危機管理担当主任		笠井 剛		
	本計画改訂業務委託契約先		株式会社ドーコン 3名		

傍聴者：0名

### 1. 開会

### 2. 委員長挨拶

#### 【加賀屋委員長】

- ・先日、岩見沢市で大雨が降り、内水氾濫により水害が起きた。被害は、ハザードマップでは想定されていなかった地域で起こった。マップを100%信用するのではなく、想定外もあることを普段の心構えとして認識することが大きなポイントになる。
- ・広尾町では、これまで津波被害が想定されていなかった地域が、新しい想定では高台までつかることになったため、高台の住民が避難訓練を行った。約1.5km先にある避難所へ、要援護者も含めて避難できるかどうかの訓練を行なった。結果は30分以内に全員避難することができ、うまくいったようである。
- ・このように、災害に対して我々はどのように向き合っていくかがポイントになる。古くから近所づきあいの基本的な考え方に「向こう三軒両隣」の考え方がある。どういう方が住んでいるか、どのようにお互いを助け合っていくべきか、我々一人ひとりが考えていくことによって自助、共助の考え方が広がっていくと思う。
- ・また、小中学生への防災教育も重要である。子どもたちが災害に対する知識や、いざという時の対応について学ぶことで、大人が逆に教えられるというケースも多分にあると思う。
- ・想定外の災害に対して我々はどのように立ち向かっていくかが、これからの特に大事なポイントになる。

トになる。本日もこのポイントを意識しながら議論し、避難所を実際に運用していくときに何が必要なのか、ある程度頭に入れていく方法を考えていければと思う。

### 3. 前回議事録の確認

#### (1) 前回議事の概要

【事務局：(株)ドーコン】

- ・「第6回検討委員会議事録」を配布し、議事内容や各委員の発言等についての確認を行った。

### 4. グループ別意見交換

#### (1) 情報提供

【事務局：(株)ドーコン】

##### ①災害発生時の個人の行動手順

- ・地震や津波の発生時に個人が取るべき身の守りかたについて案を説明

##### ②災害発生時の地域の活動

- ・災害時の地域の活動として、「情報収集・連絡」、「防火・初期消火」「救助救出」を紹介
- ・上記活動の地域における活動の限界（終了の判断）などの専門的部分は消防と協議をして検討する。
- ・それぞれの迅速な活動に向けた課題や留意点について議論をお願いしたい。

##### ③避難所運営の組織

- ・現状の石狩市避難所運営マニュアルにおける居住組、活動班を照会
- ・本日の議題として、避難所運営の留意点について議論をお願いしたい。

#### (2) 意見交換会

- ・委員を以下の2つのグループ分け意見交換を行う。
- ・サポートとして各グループに事務局から2名の要員を配置する。

【メンバー構成】

<グループ1>

石川委員、東委員、古泉委員、五十嵐委員、菊池委員

<グループ2>

竹口委員、山田委員、熊谷委員、藤巻委員、羽田委員、荒川委員

### 5. グループ別意見発表

#### (1) グループ別意見発表

<グループ1>

- ・応急対策については、大規模地震が起きたときは身動きが取れないので、まずは自分の身を守ることが第一。各家庭での家具の転倒防止策などを徹底しておくべきである。また、現在、ガスはマイコンツール等があるので、火元を消す前に身を守ることを先に行い、安全が確保された段階で火元の確認をすべき。ブレーカーを落とすと夜の災害時は周囲が見えないことがあるため、検討が必要なのではないか。

- ・共助による避難のためには、各地域の防災リーダーの育成が必要である。例えば、冬場の災害時、車椅子の方を押して避難する、またはソリを引いて避難することは困難になる。そのため、簡易の担架の作り方を皆が知っておくべきであり、2、3人のチームを事前につくり、いざという時に避難できるようにしておくべき。
- ・多くの役目があり、スキルアップした町内会役員は2、3年で交代してしまうため、役員のOBも継続的に地域防災に関わり、地域としての防災力を高めていくことが大切である。
- ・そういった共助の一方で、ホイッスルを普段から用意しておくなど、いざという時に自分の身を守れるようにしておくことを徹底しておくべき。
- ・避難所運営については、複数の町内会によって1つの避難所を使用することになり、さらに開設時には担当市職員が立ち会うことになっている。そのため、町内会や自主防災組織単位ではなく、担当市職員も含めて避難所単位で普段から訓練を実施し、あらかじめ避難所運営本部長を決める等の準備を実施しておくべきである。そして、実際に避難所を開設した際の、各自の係や役目も決めておくべきではないか。
- ・浜益地区の避難所は、完全に孤立化する可能性もあるため、避難所運営の訓練をしていく際には、孤立化した場合も想定しながら行っていく必要があるのではないか。

### <グループ2>

- ・応急対策（自助）について、石狩（北海道）では、冬はストーブを使うことが多いため、防火としてストーブの火元確認も明記すべきではないか。また、消火器の設置も重要であり、使い方についても訓練が必要である。
- ・避難する時に、車を使うのか使わないのか、また、その理由（考え方）も明記しておくべきである。避難時は車を使わないという基本的な考え方とともに、自動車を使用すべき場合のルールなどの認識を広める必要がある。
- ・応急対策（共助）として、町内会ごとに準備してある防災資機材は、多くの方に認識されていない状況にあるため、きちんと活用できるようにしておくべきである。また、資機材（例えば消火器）の数も、もっと多く準備しても良いのではないか。
- ・石狩では地下水を利用した融雪槽を設置している人が多い。消火用水やトイレの雑廃水への使用等、融雪槽の活用も一つの考えではないか。
- ・避難所運営については、まずは避難所に行ってみる、そして炊き出しも含めて運営に近い訓練をやってみることが大切であると加賀屋委員長から助言があった。実際に訓練を行うことにより、避難所運営における課題等を考えていくことが重要である。
- ・運営組織については、町内会長等の役職は1～2年で変わってしまうため、地域の防災組織は町内会とは別組織とした方がよいのではないかと提案があった。市役所や消防、自衛隊のOBなど、地域の人材にそれぞれ役割を担ってもらい、彼らの専門的なノウハウを活かすことで、継続的な組織形成ができると思う。また、町内会単位での活動や、町内会がいくつか集まった学校単位（避難所単位）での活動、行政との情報のやりとりの仕組みなど、色々な組織単位での連携が大切。
- ・避難所運営では、女性の視点でチェックすることも重要。女性の方も避難所運営に携わっていくことが大切。
- ・避難所に入れない人や自宅に留まらざる得ない人も必ず出てくる。そのため、避難所運営組織がそういった方々も含めてきちんとケアすることも必要だと思う。

## (2) 委員長からの総括

### 【加賀屋委員長】

#### ①自分の身をまず守ることを基本に考える

- ・自助、共助、公助の順で考えていくことが基本。応急対策でいうと、身を守る、ガスの確認をするなど冷静に段階を考えることも大切であり、ホイッスルや携帯用 LED ライトなど、自分で用意できるものもある。まずは自分の身をどう守るかが大切なポイントになる。

#### ②避難時の様々なケースの想定

- ・避難に関しては、基本的に 30 分の間で何ができるか考えていくべき。30 分で避難できない時は、車を使わざるを得なくなり、水害の場合は、水が 50cm 浸かれば、歩くことができなくなる。どうやって避難所に到達できるか、様々なケースを想定して考えておくべき。

#### ③避難所運営の役割の共有

- ・避難所運営組織は、様々な町内会の要望をまとめ、一つの考え方にしていかなければならないなど、複雑な組織であるため、組織化の際は、いかにリーダーがしっかりしているか、リーダーシップをどう考えていくかが大切。そのとき「公助」として、市役所と避難所の管理・運営を考えていく必要があると思う。
- ・避難所での役割は、町内会単位でも、市役所単位でも同じような組織を作った方がよい。ICT の考え方のように、組織は大きな単位でも小さな単位でも役割を共有化していくことが必要になる。このような組織をどのように作っていくのか、そして、その時のリーダーをどのように考えていくのか、今後の課題だと思う。
- ・最後に、避難所の組織では、女性の視点というのは大事である。密集したところの生活においては、避難所の運営における大きなウェイトを占めると思う。
- ・このようなことを踏まえ、いざという時に地域が良い方向に動いていくことができる姿をつくっていければいいと思う。

## 6. 閉会

### 【事務局：ドーコン】

- ・次回、第 8 回検討委員会は 10 月 19 日（金）15 時の開催とする。

平成 24 年 10 月 19 日 議事録確定

石狩市地域防災計画・水防計画改訂検討委員会

委員長 加賀屋 誠一